

コスメ収納ボックス

Cosmetics storage box

師岡 妃月¹⁾

指導教員 谷上 欣也¹⁾

1) サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 プロダクトデザイン研究室

キーワード：コスメ，災害，収納ボックス

1. 研究目的

社会人女性は化粧をすることがマナーとされている。化粧は気分を高める効果がある一方で、化粧品の種類は多く、持ち運びや収納について悩んでいる人も多い。本研究では化粧を始める年齢層をターゲットにコスメを綺麗に収納できるボックスを提案する。

2. 調査内容

コスメの収納方法や普段持ち歩くコスメについて10代と20代の女性20名に対してインタビュー形式で調査した。また、化粧することによる心理的な影響についても調査した。

(1)持っているコスメの量

リップや化粧下地、マスカラなどを中心にA3サイズの箱に収まるくらいの量を持っている人がほとんどだった。一方で、大量にコスメを持っている人もいた。

(2)持ち歩くコスメの量

普段どのくらいコスメを持ち歩くのか調査したところ、リップ2、3本くらいと少量だった。これは化粧品の進化により、化粧直しをしなくてもよくなったためだと考えられる。

(3)収納について

どんなものに収納しているのか調査したところ、一番多かったのは、ポーチが多かった。理由は朝の時間がない時に片づけるのが楽になるという意見が多かった。中にはポーチだけでは収納しきれず、箱や別のポーチを併用している人もいた。

ポーチに入れて収納すると、どこに何があるか

把握しづらく、化粧品同士が擦れ汚れることや、ケースの破損に繋がることもある。また、筆などは衛生的でないことがわかった。(図1)



図1. コスメの調査

(4)災害と化粧について

化粧品メーカーのおこなった調査によると、災害時に化粧をすることで心理的に大きなメリットがあるという結果が得られている。被災者からは「ずっとお化粧がしたいと思っていた」、「メイクができて気持ちが明るくなった」という意見が寄せられており、普段使っている化粧品を災害時でも使える仕組みが必要であるといえる。

3. コンセプト

「一目瞭然」とする。どこに何があるかわかりやすく、コスメが汚れることなく、衛生面も保たれる収納ボックスを提案する。

4. アイディア展開

どこに何をしまうかを調査し、片付けを簡単に

できるものが使いやすいと考えた。そこで何個か仕切りをつけ、筆など長いものは立たせる構造にした。収納上面には持ち運びができるポーチをつけ、下に収納するスペースを作る。ポーチには、頻繁に使うコスメを入れる部分を作ることで、片付けをスムーズにできるようにする。ポーチは布ポーチや巾着を使う人が多かったため、それを参考にしたデザインを考えている。そして、災害時でも持ち運びしやすいように上にすぐに取れるようにマジックテープで接着している。筆は立たせることで、直接肌にあたる部分も衛生的に保つことができる。また、収納ケースを汚すこともない。コスメの中でリップ、アイシャドウ、チークは色の種類などが多い。化粧品が擦れてパッケージが汚れることを防止するため、それぞれを仕切る。

ポーチは、取り外しができるようになる。入れ方で考えているのは、一段目の左側にチーク、真ん中にアイシャドウ、右側にリップ、二段目の左側にシェーディングなどの粉類、右側にアイライナーなど棒状の物、三段目にファンデーションなどの肌に塗るもの。上の筒は筆を入れる。上部のポーチには、普段絶対に使うコスメを入れる。

5. 今後の課題

今後は試作を使って検証をおこない、問題点を把握する。問題点を踏まえ、再度デザイン検討と試作をする予定である。形状や大きさ、色などの他に取手部分、ポーチの形、引き出しの寸法、ポーチの接着部分など検討する必要がある。



図 2. 試作モデル

参考文献

[1]資生堂公式ホームページ

「SHISEIDO：被災地での肌と髪の毛のケア」

https://corp.shiseido.com/jp/sustainability/community/shien_support/pdf/beauty.pdf

閲覧日：2022/10/17

[2]「素材ラボ」

https://corp.shiseido.com/jp/sustainability/community/shien_support/pdf/beauty.pdf

閲覧日：2022/10/17